

# 原発汚染水放出 緊迫

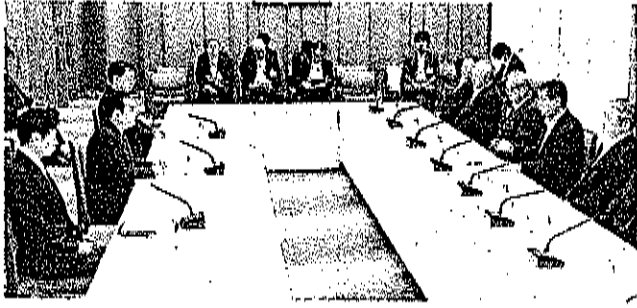
## 反対いささかも変わらぬ

### 全漁連会長、首相に表明

東京電力福島第一原発事故で発生した汚染水（アルプス処理水）の海洋放出をめぐって、福田文雄首相は21日、全国漁業協同組合連合会（全漁連）の坂本雅信会長と首相官邸で会談し、申し述べた。

首相は会談冒頭、「原発と処理水排出の懸念が漁業者のなりわいが継続できる限り、国が全責任を持つべき対応策を講じて続けることを約束する」と表明。これに対し、坂本氏は「漁業の科学的な安全と社会的な安全、国民の理解を得られない処理水の海洋放出に反対する」と述べた。しかしながら、科学的な安全と社会的な安全は異なるものがあり、科学的に安全だからといって、国民の安全を脅かすことはできないと述べた。

会談には福島県漁連の鈴木三喜男事務局長も関係者として出席し、西村康稔経済産業相も出席した。坂本氏は会談後、記者団に対し、首相は処理水放出の具体的な日程を示さなかったと明らかにした。政府は21日、東京電力福島第一原発から生じる処理水について、24日にも海洋放出を開始する方向で閣議に入り、22日に閣議で関係閣僚会議を開催して具体的な日程を決定します。



首相官邸で会談した首相（左から）と全漁連会長の坂本雅信（右）ら。背景には福島第一原発の汚染水処理設備の映像が映し出されている。

# 県民・国民・専門家の議論必要

## 放出凍結求める

東京電力福島第1原発事故からの復興と、汚染水（ALPS処理水）問題を考える福島円卓会議の3回目の会合が21日、福島市で開かれ、汚染水海洋放出の凍結などを内容とする「緊急アピール」を発表しました。

円卓会議は学者、研究者が呼びかけて7月に結成。呼びかけ人らが作成した文案をもとに、会合参加者の意見を得てまとめ上げ、近く国などに提出します。

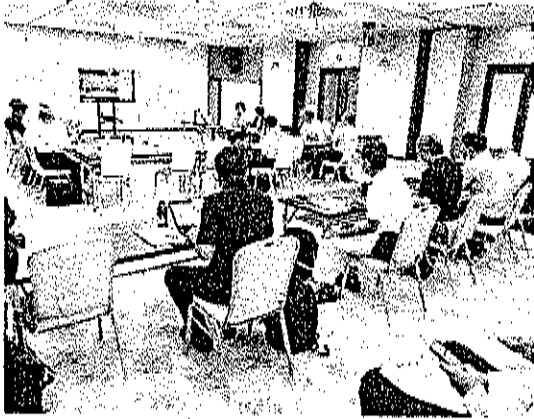
アピールでは、「ALPS処理水」を今夏ごろまで

## 福島円卓会議緊急アピール

に海洋放出するという「スケジュール」は2015年の「関係者の理解なしに」いかなる放出もせず、処理した水はタンクに貯留する」という約束を順守するため凍結し、関係する人たちの参加による議論に付すべきだとしています。

そして、「地元の漁業復興の阻害をこれ以上許容できないものではなく、どうすれば漁業の復興を続けられるかを政府・東電も真摯に考え、対話すべき」だと指摘しています。

アピールはまた、いま優先して取り組むべきは「地下水流入・汚染水削減の抜本的対策」だと強調し、海洋放出に関する東電の具体的な運用計画がないことを厳しく批判。今後は県民・国民・専門家が参加して議論する場が必要だと述べています。林鷲平事務局長は「アピールが多くの人の目に触れるようにしたい」と話しました。



緊急アピールを発表した第3回  
福島円卓会議＝21日、福島市